

- 1 日時場所 令和5年11月29日(水)9時30分開会
南魚沼市民会館 会議室研修室
- 2 出席者
委員：岡村秀康教育長、西野仁委員、角谷正雄委員、須藤文子委員、川島亜紀子委員
事務局：片桐教育部長、関学校教育課長、西潟社会教育課長、吉田生涯スポーツ課長、小林
図書センター長、小島管理指導主事、南雲管理指導主事、近藤指導主事、中村指導
主事、青木学校庶務主幹、林学校指導係長

3 議 題

日程第1 **会議録署名委員の指名について**
西野仁委員、川島亜紀子委員

日程第2 **教育長及び事務局諸報告**

(教育長) (日程2ページ、教育長及び事務局諸報告のとおり)

(角谷委員) 11月19日に行われた給付型奨学金二次選考検査と、部活動地域移行の状況について教えてもらいたい。

(学教課長) 自身が経済的な事情で進学が難しかったという方からの寄附を原資に、基金を積立てている。その基金を使って、返済のいらぬ給付型奨学金を来年度より開始するため、現在選考を行っている。部活動の地域移行については、種目ごとの専門部会を10月から開始し、11月7日の吹奏楽で終了した。専門部会では、市で策定した推進計画の報告と、今年度の団体・種目ごとの状況の聞き取りを行った。12月に開催予定の部活動改革検討委員会で報告し、今後の方向性について協議を行っていく。

(西野委員) 部活動地域移行の今後については、どんどん学校教育から離れていき、受皿は社会教育が担当になっていくのではないかと感じている。今後の見通し等を聞きたい。

(社教課長) 平日はどうか分からないが、土・日については学校からかなり離れた形で取組が進んでいくのではないかと感じている。例えば、自然部・文化部・歴史部等、市内にある資源を題材にした活動ができればいいと思うが、指導者確保、受皿となる体制をどうするかが課題と考える。

(スポーツ課長) スポーツの関係についても、同じような状況である。受皿については、既存の小学生を対象としたスポーツ教室等が、どこまで中学生を受入れできるか話し合いを行っている。話し合いの中では、指導者がどこまで対応できるかが課題となっている。現在は、まずは日曜日に月に1回の活動をするという取組を進めているが、今後拡大できるかは、見通しが立たない状況である。

(西野委員) 大きな決断だったと思う。教員が土・日に部活動で学校へ行くのと同じように、指導者となる社会人も、勤めながら土・日の休みを使って指導することになった。限界が当然出てくると思う。このことに関しては、県も国も、もちろん市も、何らかの形で考えていると思うが、基本的な案を早めに作っておかないといけないのではないかと感じる。

(学教課長) 南魚沼市では、国が示している「令和7年度末までに、土・日に行っている部活動を地域に移行する」ということを目標として進めている。具体的な手法については、それぞれの市町村の状況に応じて、地域の資源等を活用していくこととなっているが、できること、できないことがある中で、調整をしながら進めている状況である。どこまで地域クラブ活動に責任を担わせるのかを十分検討しないと、教員がやっていたこ

とと同じことをただ地域へ移行しただけでは、受ける方がもたずにいずれできなくなる。地域でどういった活動をするのが、子ども達、またその指導者の環境にとっての妥協点なのかを探っている状況である。教員の働き方改革という側面がある一方で、地域の子ども達が減っており、特に団体スポーツを中心に学校単位では成り立たなくなっている。また、教員の絶対数も減る中で、指導ができる教員が減っているという事情がある。そういった中で、どうやったら子ども達がスポーツや文化活動を継続することができるのか、指導者を確保できるのかを、社会教育課、生涯スポーツ課、地域のスポーツ・文化の受け皿になりうる団体等と連携をとりながら、地域移行の協議を進めている。この先も学校教育課が所管し続けるものではないと考えているので、引継ぎ等をうまく考えながら進めていきたい。

日程第3 管理指導主事等からの報告

- (南雲管理) 文部科学省から11月17付で、不登校児童生徒への支援の充実についての通知文が発出された。この通知文を受けて、校長会にて校内教育支援センターの設置の検討を指導した。その際に、学校運営協議会で熟議をしっかりと行い、校内教育支援センターの見守りについて、地域学校連携協働本部の地域コーディネーターと相談し、地域力を借りながら進めていくのも一つのやり方であると提案した。また、不登校児童生徒への支援として、1人1台端末等を活用した心の健康観察を行うよう指導を行った。学習への取組については、読む力の視点から、朝学活時に日報賞を書写し、感想を書かせる取組や、図書館へ行こうという呼びかけを強化している学校がある。また新聞を読まない生徒が多いとのことで、新聞を読むことを強化していきたいという話も聞いている。受験対策については、受験対策問題集を中学2年生で購入し、自主学习に位置づけ、計画的に担任等が点検を行っている。
- (小島管理) インフルエンザについての11月の状況は、4小学校1中学校で計20クラスが学年閉鎖または学級閉鎖となっている。対策としては、基本的な感染症予防をするよう指導している。学力向上が喫緊の課題ということで、市の教育振興会を中心に、国際科、学習習慣や家庭学習、保護者や市民への周知などが議論されている。国際科・英語については、代表校長・教頭、英語の教科専門監、専科教員、学習指導センター、学校教育課が連携し、年内の活動スタートを予定している。そのほかのプロジェクトについては、もう少し議論が必要だということで、市の教育振興会が臨時の理事会を開催しながら、今後のプロジェクト活動につなげていく。働き方改革の一環として、年末年始の学校閉庁期間中の緊急連絡は教育委員会で受けることとし、学校の負担軽減を図っていく。
- (近藤主事) 就学相談は、11月末でほぼ終了した。保育園から小学校への引継ぎ、小学校から中学校への引継ぎを丁寧に行い、4月からの入学に向けての準備を進めている状況である。
- (中村主事) 引き続き学校訪問を行っている。11月10日には、北辰小学校にて授業研究会があり、我々も含め大変勉強になった。その様子は、便りやホームページにて、市内の教員へ発信した。また、授業の様子や読む力の取組を紹介、学力向上について等情報発信を行っている。11月後半から小学校国際科の授業に参加しているが、厳しい状況だと感じている。今後、英語専科の教員や専門監等の意見を聞きながら、学校訪問を行っていく。
- (須藤委員) タブレットの活用で、学校間での利用の違いについて保護者からはどのような声か来ているか。
- (南雲管理) 中学校のタブレット使用について、学校間の格差あるいは教員間での格差について、

学校からは出てきていない。

(小島管理) 小学校でのタブレットの使用については、学年や発達段階による差がおおきいとの声はある。また、学校間でも利用について差があるという現状は把握している。持ち帰りを推奨しており、家庭でも活用するよう指導している。

(中村主事) ICT機器に新しい機能が入った時には、教職員に向けた研修を行っている。使用については、学校間、教師間で差が広がっている。使える教員はどんどん使っていくが、使えない教員は、研修を受けてある程度の理解はできても、1人で授業中に使うまでには至っていない。使うことが負担となって、使わない方がいいと考えている教員がいるのも事実である。

(西野委員) 全員がやらなくてははいけないということだと、苦手な人は心を病んでしまうこともあると思う。どこかでクッション役が必要だと感じている。

日程第4 **第35号議案 令和5年度南魚沼市学齢児童生徒の就学援助認定の可否について（10月申請分）（資料は当日配付回収）**

(庶務主幹) (当日配付資料説明)

質疑なし

日程第5 **第14号報告 南魚沼市民会館、鈴木牧之記念館及び南魚沼市トミオカホワイト美術館の指定管理者の選定について**

(社教課長) (日程5ページ、南魚沼市民会館、鈴木牧之記念館及び南魚沼市トミオカホワイト美術館の指定管理者の選定について資料説明)

(角谷委員) 部活動の地域移行に関連して、事業計画にそのことも含めていった方がいいのではないか。

(社教課長) 申請書には謳っている。協定書に入れるかどうかは、公社と検討する。

日程第6 **第15号報告 南魚沼市文化資料展示館の指定管理者の選定について**

(社教課長) (日程6ページ、南魚沼市文化資料展示館の指定管理者の選定について資料説明)

質疑なし

日程第7 **第16号報告 南魚沼市体育施設の指定管理者の選定について**

(スポーツ課長) (日程7ページ、南魚沼市体育施設の指定管理者の選定について資料説明)

質疑なし

日程第8 **第17号報告 大原運動公園等体育施設の指定管理者の選定について**

(スポーツ課長) (日程8ページ、大原運動公園等体育施設の指定管理者の選定について資料説明)

質疑なし

日程第9 **その他**

(1) 子ども・若者相談支援センターの相談等状況について（10月分）

(教育部長) (日程9ページ、10月分相談等状況について資料説明)

(角谷委員) 働くための準備講座とキックボクシング講座について、内容を教えてもらいたい。

(教育部長) 詳細については、次回センター長より報告させる。

(2) 家庭教育支援事業実施状況（10月分）

(社教課長) (日程11ページ、10月分家庭教育支援事業実施状況について資料説明)

質疑なし

(3) 学校・地域の連携促進事業実施状況(10月分)

(学教課長) (日程12ページ、10月分学校・地域の連携促進事業実施状況について資料説明)

質疑なし

(4) 南魚沼市立小・中学校学区再編等検討委員会中間報告

(教育部長) (日程13ページ、南魚沼市立小・中学校学区再編等検討委員会中間報告について資料説明)

(角谷委員) 学級定員についても考えた方がいいと感じた。

(教育部長) 1学級の定員について、40人から30人に減らすと、人材を増やし、確保しなければいけないという事態が生じてくる。今既に確保が困難になっているという実情があるが、その辺とのバランスはどう考えたらいいか。

(角谷委員) 幼稚園に関しては、国の対策の一環として、地域限定型の保育士を認める案が出ている。保育士試験での実技をなくすということなので、質が落ちることは目に見えているが、それがいいのかどうかは別として、今までいた職員がそのまま残り、プラスで職員が入ってくるということになる。教員については、これから各地域で学級数が減ってくるわけなので、定員が25人くらいになったとしても確保ができるのではないかと。今は大変だと思うが、10年後ぐらいには大丈夫になるのではないかと考えている。

(西野委員) 教育の自由化が始まるのではないかと思っている。市内に住む全ての子どもが、市内の学校に入るとは限らないという形に、いずれはなるのではないかと感じている。しかし、それはまだ先の話だと思うので、今はこれでいいのではないかと。

(川島委員) 中間報告については、良くまとまっていると思う。しかし、これからの教育は変わる要素がたくさんあるので、その時代に合わせて変化していかなければと感じた。2つの学校が統合する場合でも地域からの意見は多くあったので、複数での統合という形になると、地域からの意見はもっといろいろとあるのではないかと感じた。

(教育部長) 20年後に統合するかもしれないので、今から学校をその時の規模で造りたいと言っても補助金は出ない。将来を見越してもいいとはなっているが、3年後ぐらいまでである。そういった制度も、これからの視点に立てば変えていってもらいたい。地域の合意形成があって、そういったことをしていこうということであれば、柔軟な仕組み作りの中でやっていかないと、学校運営は難しくなるだろうと思っている。そこまで最終答申に盛り込むかどうかは委員の方々の意見にもよるが、そういった視点を持って取り組んでいきたい。

(須藤委員) 現状がよく見えた。また、危機意識を持っていた少子化の問題が、身近に迫ったと強く感た。教育のあり方について、子ども達の将来のためにどうあるべきかを大事に検討していってもらいたい。

(5) その他

(教育長) 今後の日程について、次回教育委員会は12月22日(金)午後3時00分から市民会館で行う。令和6年第1回教育委員会は、1月26日(金)午前9時30分から市民会館で行う。以上をもって、第10回教育委員会を閉会とする。

12時07分閉議閉会